

博物館資料の効果的な活用方法と指導の汎用化をめざして — 姥山貝塚の教材化と歴史研究の過程を大切にした「学び方」の育成 —

愛知県安城市教育委員会 松永 博司

1. 実施学年及び教科・領域

中学第2学年 社会科（歴史的分野）

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

（1）主題名

歴史を明らかにしよう—姥山貝塚の資料をもとに当時の様子を考えよう—

（2）ねらい

歴史における学びとは、研究されたことを覚えることが目的なのではない。歴史のみが持つ「過去を考える」という視点に立ち、歴史研究者の追究方法に沿った分析と理解ができるように、「学習者に様々な情報を批判的に吟味させ、選択させ、歴史を解釈させる体験をさせる」¹、状況を作り出すことこそ、歴史における学びであると筆者は考えている。例えば、学んでいた歴史が新たな事実の判明によって更新されるという状況はよくあるが、学習者は更新された事実のみを追い、自分自身の知識を更新させることで歴史を理解したと勘違いしてしまう。しかし、本当に大切なことは、なぜ現在の歴史解釈がそのようなになっているのかを考えることであり、新しい発見に到った場合、そこまでの解釈の過程を知ることである。それこそが歴史を解明する方法であり、歴史研究者はそのためにさまざまな手段を用いる。学校における歴史学習についても、事実を暗記して知るだけでなく、その事実がどのような根拠のもとに解釈されているのかを考えることは、歴史的思考力の向上にも大きくつなぐるとともに、得られた知識も無目的に暗記したものとは違い、意義あるものになると考えている。

また、時代の要請としても、考えをもち、表現する力²が求められている。今次改訂の学習指導要領では、「言語の力をはぐくむ」ことに重きが置かれている。社会科の場合、「社会的な事柄について、資料を読み取って解釈し、考えたことについて根拠を示しながら説明したり自分の意見をまとめた上で、お互いに意見交換をするような活動を行う」とされ、知識や技能を活用してレポートの作成や論述等をおこなうことが言語の力を高める学習の一例と示されている。

以上のことから、歴史学習にとって大切なことは、知識として鵜呑みにして暗記をさせることではなく、知識を得ていくための「学び方」を習得させることであり、そのための学習方法を検討していくことが大切であると考えられる。今回の実践においては、遺跡の資料から得られる情報をもとにして、今まで学んださまざまな知識を駆使して時代や当時の状況を予測する活動をおこなうものであり、指導要領に合致した能力の育成を目指す学び方が得られると期待している。

（3）博物館との関連

博物館を活用しようとする際、教師の授業構想力や専門知識の量など、活用する側の姿勢によってその役割は大きく変わる。また、生徒に指導したい内容についての理解や、付けたい能力の違いなども、指導内容に大きく影響する。教師個々の力量や関心等によって、取り組みの姿勢は大きく変わるのである。

さらに学校によっては、博物館に来訪する活用方法もあれば、訪問できなくとも人的物的資源を活用する方法もある。従って博物館は、活用しようとする側のさまざまなニーズを知ると共に、さまざまな使われ方を考えることが、学校や生徒の活用促進につながることを十分認識する必要がある。

本学習においては、博物館の資料をより多くの人に効果的に活用してもらうことを目指している。筆者の勤務地である愛知県のように、国立歴史民俗博物館（以下歴博）が遠隔地で容易に訪問できない場合においても効果的に活用することができる方法を考えた。

また、前報告書³においては、生徒が歴博から遠隔地であり、訪問して学習に活用することが困難であるものの、安城市歴史博物館での特別展「江戸っ子が見た三河万歳」において江戸図屏風が展示されていたという状況を踏まえて構想を立て、三河万歳を江戸で披露する人々を江戸図屏風を用いて取り上げることで、地域と江戸のつながりを知る活動をおこなった。しかし、誰もが活用できるといった内容ではなく、各授業者や学校ごとに指導案を考え、博物館の活用方法や授業展開の方法を始めから検討していかなければならなかった。

今回は、指導案や準備した教材をもとにすれば、誰もが歴史について考え、学び方を習得できる方法はないか考え、歴博の資料を映像教材化した。遠隔地の学校には映像自体から学び、来館可能な学校からは、映像での事前学習の後に実際に復元模型を見たり説明を聞いたりして、誰もが歴博の資料を用いて容易に歴史の「学び方」を習得できる方法を考えた。

3. 指導計画

来館型の授業では2時間、遠隔地の場合は1時間を想定し取り組みをしている。ここに示した指導案は、遠隔地において活用する取り組みである。

(1) 本時の目標

- ・姥山貝塚（千葉県市川市）に関する歴史資料や情報、今までの知識等をもとにして、縄文時代に生活をした人々の様子がどのようなものであったのかを考え、根拠をあげて説明することができる。
- ・姥山貝塚の白骨死体がどのような理由でここに埋葬されていたかを解明する過程を通して、歴史を明らかにするための方法を知り、歴史の学び方を習得することができる。

(2) 準備

- ・映像資料「歴史ニュース～姥山貝塚から5名の白骨死体～」
- ・補足資料「姥山貝塚から出土したものと発見されたときの様子」
- ・ワークシート

(3) 本時の指導

過程	時間	○学習活動 ●学習内容	指導上の留意点
導入	5分	<p>●本時の学習の目標を確認する。</p> <p>○ニュース仕立てでつくった資料をもとにして、歴史の追究方法を学ぶことを伝える。</p>	<p>・本時の活動が、歴史を研究する方法の1つであり、現場を発掘し、遺跡などを調査することによって、事実がわかっていることを生徒に予告する。</p>
		<p>●ニュース映像を見て、事件を分析しよう</p>	
展開	10分	<p>○映像を視聴し、遺跡の分析をする。</p> <p>< 1回目の視聴 ></p> <p>○何も準備せずに視聴し、概要を知る。</p> <p>○ニュース仕立てにつくった遺跡の解説資料を視聴後、補足資料を配付し、次のことについて考える。</p> <p>●いつの時代でしょうか。</p> <p>●何が起きたのでしょうか。</p>	<p>・大型画面で見せられるとよいが、難しい場合などはコンピュータ室で一斉に画像を見せるようにする。</p> <p>・腕輪や周囲からの出土物をワークシートに印刷し、該当する時代が既習の知識から明らかにしやすいようにする。</p> <p>・教師が示した2つの問いについて、理由を挙げて考えるように伝える。</p> <p>・大切だと思うことはメモをするように知らせる。</p>
	15分	<p>< 2回目の視聴 ></p> <p>○資料とワークシートを配付し、資料を活用しながら考え、書き込みをする。</p>	
	20分	<p>< 3回目の視聴 ></p> <p>○検討のための時間が足りない生徒のために再度視聴をする。</p>	
	25分	<p>○自分の考えを、理由を挙げてまとめる。</p> <p>○ワークシートに自分の考えを書く。</p>	
	35分	<p>○みんなで意見交換をし、誰の意見が根拠をあげてわかりやすく説明していたか評価をする。</p> <p>○友だちの考えを聞き、筋道を立てて説明できているかを評価する。</p>	
整理	45分	<p>●姥山貝塚の白骨死体に関する研究者の考えを伝え、歴史を明らかにするの一つの方法を理解する。</p> <p>○今日の学習を振り返る。</p> <p>○反省をワークシートにまとめる。</p>	<p>・歴史を明らかにするためには、遺跡や遺物の状態、他の資料との比較、さまざまな研究者の見解などから考えることについて理解させる。</p>

4. 実践の概要

(1) 姥山遺跡の教材化の可能性

本実践で取り上げる姥山貝塚は千葉県市川市にあり、大正13年から発掘が行われた。出土物は多くはないものの、現在100体を超える人骨やたくさんの住居跡が見つかった遺跡で、紀元前4000年から3000年の縄文時代中葉のものであるといわれている。教材として扱う場面は、歴博に5体の白骨死体とともに現場が復元されている。1体は少し離れており、残り4体は子どもも含めて折り重なって発見された。また、出土時に白骨死体が重なっていた状況などについても諸説あり、当初は事件等で家族が死亡したと考えられたが、現在では死亡後に埋葬された可能性が高いとされている。

ここでは、2つの理由から姥山貝塚の教材化を進めた。まず第1の理由として、姥山貝塚で人骨が発見された状況から、さまざまな死体埋葬の理由や疑問が考えられるからである。第2の理由としては、来館型の博物館活用授業では、実際に訪問し、現在の研究で明らかとなっている見解について専門家より説明が聞けるという利点があり、遠隔地の博物館活用授業においては、復元した場面をもとにして映像資料にしたり、写真資料を準備したりすることで、現場の把握と理由の検証が比較的容易だからである。また、帝国書院発行の社会科（歴史的分野）の教科書⁴に、姥山貝塚を用いた当時の状況の解明をめざす取り組みが掲載されている。本実践では、こうした歴史追究の活動を映像資料などを用いてより効果的に進めることをめざして取り組むものである。なお、姥山貝塚の復元模型を素材としたニュース映像の作成にあたっては、愛知県安城市立安祥中学校彦坂貴幸先生に編集を依頼した。

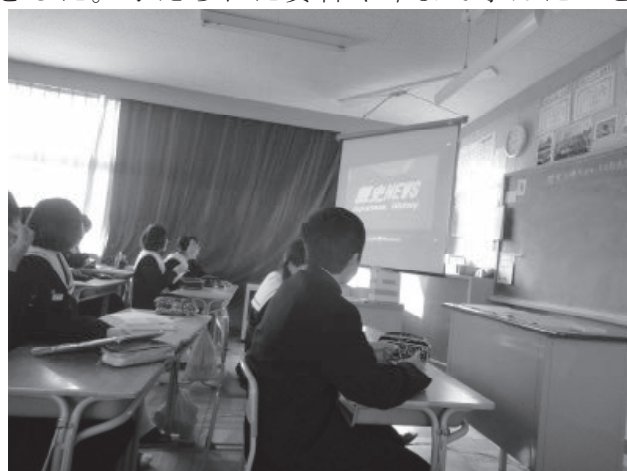
(2) 本実践の進め方と導入部での目的説明

本実践に取り組むにあたって、誰もが指導できる内容や方法で指導案や資料を作成した上で、汎用版として誰もが適切に活用できたかを検証するために、愛知県安城市立安祥中学校杉山也寸史先生に授業実践を依頼し、同校2年生で実際に授業をおこなった。

授業ではまずこの授業の目的について説明をした。与えられた資料や今まで学んだことを駆使して、当時の様子を推測することをめざし、歴史学習での「学び方」を体得してほしいと話した上で授業の本題に入った。従って、遺跡名も、何時代の出来事かなどについても一切触れず、生徒の既習の知識の中で回答を求めるようにした。

(3) ニュース映像の視聴

次に、姥山貝塚の発見当時の情報をもとにしたニュース仕立ての番組を、「歴史NEWS」と題して視聴した。2分30秒ほどにまとめた映像のため、同じものを3回繰り返して見せることとした。



スクリーンでニュース画像を視聴する生徒

今日、千葉県市川市で、子どもを含めた5名の遺体が発見されました。5名はそれぞれ土砂に埋まった形で発見され、全て白骨化していました。それぞれの遺体が発見されたときの様子は、次の通りです。それぞれの遺体は離れ、広い穴のようなところで発見されています。人骨の周囲には掘ったような穴が数個発見され、手前にはツボのようなものが地面に埋められています。それでは、それぞれの遺体を見ていきましょう。一人目の遺体は、成人のようです。足を曲げたような形で発見され、腕には貝でできた腕輪のようなものを付けています。次に、少し離れたところに、4名の遺体がありました。そのうち1名は子どもと思われるので、大人3名の人骨と重なるようにうまっています。また、成人の人骨もそれぞれが重なり合っている状態で、当時どのように寝ていたのか、何かに巻き込まれたのかなど、あまりはっきりとしていない状態です。警察の調べでは、遺体の5名が、かなり古い時期に埋められ、長い間日の目を見ることなく今日に至ったのではないかとしており、事件と事故の両面から捜査しています。なお、遺体の周囲には深い穴が4つほど残っておりますが、どのように使っていたのかはわかりません。以上、今日の歴史ニュースでした。 <歴史NEWS原稿>

歴史を明らかにしよう ワークシート
名前 _____

今日の課題

ニュース映像や補足資料を見て、5名の白骨死体がいつのものか、なぜこのような形で発見されたのか(死因など)を、探偵になったつもりで、理由を挙げて自分の考えを出してください。

メモコーナー(考えや大切なことを10個以上見つけてメモしていこう)

大人 4人 子供 1人
貝の腕輪
土の穴 5ヶ所
千葉県市川市

<自分の考えを書こう> ※発表できるように文章にしてみよう。

①いつの時代のできごとだと思いますか?理由も考えて文章にしてください。

掘り下げた土地にも大人の人がいることから、人々は堅穴住居に住んでいることが分かります。貝などの腕輪をつけているということは、貝をとっていた時代...だから旧石器〜弥生時代??

②この白骨死体の5名はなぜこのような形で発見されたのでしょうか。死因などを考え、理由を挙げて文章にしてください。

5名は足を曲げた姿勢で見つかっていることから、中心に置かれた土器で何かを作っている場所と5名は貝でいたときに事故は起った。おそらく火事であれば逃げまわっているはずだから足は曲げていないはずですよ。急に何かが起こったことで死んだと思います。A. 堅穴住居(お墓)に

友達の見聞を聞いて、よいと思った人の名前と、理由を書きましょう。自分の考えの方がいいと思った人も、理由を書きましょう。

よかった人の名前 _____ さん 理由 _____
大人4人:子供1人、その中で大人3人が子供1人とかはっているから、一番有かな説だと考えました。

授業の感想<今日勉強してわかったことや印象に残ったことは何ですか>

歴史は“なぜ”がたくさんでおもしろいな、と思いました。基礎が理解できていないと応用できないので、今のうちにしっかりと勉強しておきたいです。

まず第1回目として、何もメモをしたり説明をしたりせず、全員で視聴をした。映像と音声により貝塚の人骨に関する情報は入ってくるものの、死体がなぜ堅穴の中で発見されたかなど、詳細についてはわからない様子であった。

次に、姥山貝塚に関する補足資料とワークシートを配付し、第2回目の視聴の準備をおこなった。補足資料には、出土当時の写真と歴博に展示されている現場の復元の写真、貝塚に埋まっていた人骨5体の姿勢や重なる様子、そのほかに出土したものである。教師は、映像資料と紙媒体による資料、そして、耳で聞いた情報と自分自身の持っている知識を駆使して、①この人骨は何時代のものか、②なぜ5名はこのような形で発見されたのか、の2点を追究することを課題として提示した。生徒は第1回目と比較してワークシートにメモをする姿などが見られたほか、第3回目の映像資料提示も積極的に望み、さらに多くの情報を書きとめる姿があった。

(4) 自分の考えを根拠をあげて記録する

3回の視聴を経て、自分の意見をワークシートに記入する活動をした。ここでは、自分の考えの根拠を明らかにすることをしっかりと伝え、必ずワークシートに記載するように指示した。教師は机間指導をして出土物や遺跡に関する生徒の質問に答えた。他の生徒にとっても有益な情報は、学級全体に伝えるようにし、生徒の推理がしやすいようにした。当初は右の写真のよう



ワークシートの設問を考える様子

うに生徒一人ひとりがワークシートに向き合っていて考えていたが、そのうちに周囲と意見交換をする姿が目立ち始め、しだいに自然と意見交換をする姿が見られるようになった。

「いつの時代の出来事だと思いますか？」という問いには、補足資料に掲載されていた出土物の写真をもとに、土器に縄の模様があるから縄文時代だと答える者が多かったが、白骨死体が見つかった場所が掘り下げた土地であったことから、堅穴住居であると予測して、縄文と弥生時代の間と限定する者、貝の腕輪などから縄文時代であると予測する者、土器の縄目が思ったほど鮮明に表されていないとして、弥生時代であるとする者などがいた。

「この白骨死体の5名はなぜこのような形で発見されたのですか」との問いには、次のようなものがあった。

- きっと寝てたんでしょうね。んで地震が来ちゃって、屋根飛んで、死んで、そのまま白骨死体に。どうやらこの5名は家族でしょう。反抗期の子が一人外れて寝ていて。4つの穴は柱でしょう。(A子)
- 5人は足を曲げた姿勢で見つかったことから、中心に置かれた土器で何かをつくっている場所を5名は見えていたときに事故は起こったと思います。おそらく火事であれば逃げ回っているはずだから、足は曲げていないはずです。よって、何かが急に起こったことで死んだと思います。(B子)
- 私は何者かに寝ている時に襲われたか、自然災害が理由だと思います。1つ目の理由は、子どもと見られる死体が大人3人に重なってあるので、大人が守ろうとしたのではないかと考えました。2つ目の方は、土器などがそれなりにきれいな状態で発見されているので、火山灰などに埋もれていたのかなと思いました。(C男)

生徒は、眼に見える情報と補足資料をもとにして検討をした。検討するポイントとしては、人骨の姿勢、1体だけ離れた死体、複数の折り重なっている死体、腕に付けられた貝輪、複数の穴である。このうち複数の穴については、ビデオ視聴などから「住居跡ではないか」と考える者が多く、折り重なった死体があることから、逃げられる時間も無く住居が崩れ去ったのではないかと考える者が多かった。

死体の姿勢なども、死因を考える上での大きなポイントになっている。足を曲げているところから、急に何かが起こって死んだのではないかと考える者もいた一方で、授業で学んだ「屈葬」という表現を持ち出して、埋葬されたのではないかと考える生徒もいた。いずれにしても、与えられた情報から自分たちの生活と重ね合わせ、人が死ぬ時の姿勢や周辺の状況等普通に死亡するには不自然な状況が多いことを考えることができていた。

(5) 自分の考えを発表する

教師は、生徒が自分の考えを書いている間に机間指導をしつつ、発表する上で適当なワークシートの記述について、生徒に話を聞いた上である程度選定しておく。選定の基準としては、根拠がしっかりしていて既習の知識などを使いつつ、発掘現場の当時の状況を想像できるようなものとし、この日も数点選んで発表をしてもらった。

- 自分は凍死か病死ではないかと思います。4つの穴はおそらく竪穴住居の柱で、左に固まっているのは人が集まっていたということだから、暖め合っていて結局凍死になってしまったのではないかと思います。また、病死と思うのは、屈葬をしている状態だし、この遺跡が貝塚と考えられるので、お墓じゃないのかなぁと思います。(D男)
- 女性の腕輪を今でいう手錠だと考えると、何かに捕まって、2mから3m位の深い穴に入れ、逃げ出せないようにし、その時持っていたり落ちたりしていた道具を使って穴を掘ったが、食料などが与えられなかったので、それで死んだ。それは骨に傷がないからである。そして、子どもの骨の近くに大人の骨がたくさんあったのは、子どもの不安を和らげるためではないかと思います。(E子)
- 火事だと思います。子どもの上に大人が重なっているのは、火から守ろうとしたからで、一人だけ離れているのは、足をけがして、動けなかったからではないかと思います。(F男)
- 浅い穴の中にあるということは竪穴住居のあとだとわかります。死体が折り重なっていることで暖をとっている可能性があります。人は極限にエネルギーがなくなると熱の生成にエネルギーがいなくなるので、そのために暖をとっていると考えられ、1号が腹を押さえているように死んでいるということがわかります。(G子)

なお、本授業で話し合われた人骨死体大量発見の理由としては、次のような意見を持った者を発表者として指名し、みんなで協議した。

発表を終えた生徒たちは、それぞれ出された友達の意見について、誰の意見がよかったか、どこがよかったかを記述して評価をした。右に示したものは、その一例である。

- 屈葬しているとかとてもよく考えられていた。貝塚だからお墓じゃないのかなというのとても納得した。(D男の意見に対して)
- 4人は子どもをかばったという発想は、骨の様子などから見て納得ができた。(E子の意見に対して)
- 一人だけ離れているということが説明つかなかったけれど、それもあたりだと思った。(F男の意見に対して)
- 今までの歴史の知恵とかを使って理由をいっているからとても凄いなと思った。よく勉強してる。(G子の意見に対して)

(6) 考えを振り返る

本実践では博物館から離れた遠隔地の授業であったため、授業者により発表の講評をお

こなった。なお、来館型の授業を想定した場合、2時間目としては研究者により遺跡の分析の見方や、現在の研究によるこの遺跡の状況についての説明などを想定している。その理由としては、生徒が資料などを用いてさまざまな視点から考えた意見に対して研究者の立場から評価をすることと、生徒が考えを導き出すための手法が適切であったか話してもらうためである。

この遺跡が発見された当初は、住居跡で複数遺体が発見されたという経緯から、病死や事故死等の意見も出されていた。しかし最近では、白骨死体の置かれている状況や血縁関係などの調査から、死後移動されたものであるとの考え方が強い。このことを教師が伝え、さまざまな角度から調査された事実をもとに、根拠を挙げて結論を出していることを理解させた。生徒は、実際の歴史研究においても同様な形で事実を究明しようとしていることが、自分たちの学習から体感できたようである。

5. 成果と課題

以上の実践から、生徒および授業者が書いた感想をもとに、本実践の成果と課題を明らかにし、このような取り組みが汎用型だったと言えるか検証したい。

<教師>

- 根拠を挙げて考えを出すところが生徒には難易度が高いかどうか
→私が考えた率直な意見としては、そこまで高いとは思わなかった。しかし、感想を見ると、「考えるのは難しい」と答える生徒もいた。映像は1度ではなく何度も見ることで深く考えるようになったという印象がある。
- 友達の意見を聞く場面でさまざまな意見が出ていることに気づくか
→「いろいろな発想が出て面白い」や「みんな意見を聞いて納得した」と答える人が多かった。
- 知識として、縄文時代だということを根拠づけて導き出せたか
→クラスによってばらつきがあったが、縄文時代と答える生徒が多く、次に弥生時代であった。根拠づけはある程度できていたと思う。
- 感想で、歴史の追究方法などに理解を示す生徒はどれくらいいたか
→教科書の記述がどのような研究を経てできるかというところまで考えが及んでいる生徒がいる一方で、ただ漠然と面白かったと感じるだけの生徒もいた。

<生徒>

- 1つの疑問からいろいろなことが思いつくのって楽しい。今日のやつ、明らかになったら知りたいね。またやりたいね。
- こういう疑問を解決するのは大変だなあと思った。本当は何だったのかが気になる。解決したらぜひ教えてほしい。
- 今日の授業を受けて自分なりに歴史をとらえることやいろいろな視野から観察することができ、とてもよい経験が積めたなと思います。
- 歴史というのはわかっていることを学ぶのも面白いのですが、自分で解き明かすのもすごく楽しいことがわかりました。
- 歴史を明らかにするのは難しいと思った。歴史の教科書はすごいたくさんの方がつくっているんじゃないかと考えると、あの教科書はすごいと思った。
- 歴史の謎はとっても面白いと思った。考えて結論出すのいいね～。今まで勉強したことを生かして考えたりするのは超楽しいね～。周りのものなどで時代がわかるというのはすごいと思った。

教師には前もって授業での検証のポイントを与えておいた。根拠を挙げることを生徒は難解に感じず、映像教材も考えを深めるために効果的であった。補足資料などから学んで

いた時代をほぼ推察し、他の意見で考えを深めることができたものの、「面白かった」という感想のみで終了した生徒もいた。生徒の感想では、歴史を覚えることよりも調べて明らかにすることの楽しさについて書いている者が多かったが、中には、「歴史を明らかにするのは難しかった」と答える生徒もいた。また、「歴史の教科書はすごいたくさんの人がつくっている」という表現もあり、教科書の記述をただ理解するのではなく、「今まで勉強したことを生かして考える」ことの大切さに気づいた生徒もおり、よい成果を上げたと思う。

6. わたしの考える歴博活用案

今回映像化した歴博資料は、遠隔地においても訪問型にも活用できる教材となり、大きな成果を上げた。また、博物館に訪問する形の授業においても同様の成果が上げられると期待する。ここでは、訪問した際の2時間目の指導案について提示したい。

過程	時間	○学習活動	指導上の留意点
導入	5分	○姥山遺跡の復元展示を見学する。	・研究者とともに学習することを紹介し、遺跡についての分析に意欲を持たせる。
		姥山貝塚の人骨の謎を解き明かそう	
展開	10分	○単眼鏡を利用し、遺跡について気づいたことや疑問をメモ用紙に記述する。	・博物館の研究者に見学の際に同席していただいた場合は、簡単な疑問はその場で質問させる。
	20分	○見学した上で気づいた疑問について発表する。 ○出された質問についての答えをメモして、自分自身が出す最終的な結論に生かす。	・生徒の疑問に答える形で博物館の研究者に遺跡の発掘当時の状況などを説明してもらおう。 ・生徒から質問を受けたこと以外の部分まで細かく説明をしないようにし、生徒がより多くの疑問を発言によって出せるようにする。
	25分	○出された疑問を参考に、最終的な自分の意見を根拠を挙げて考える。	・歴史博物館の研究者を生徒の説に対するコメンテーターとして参加をもらい、根拠を挙げて説を立てているのかを検討する。
	35分	○自分の考えた意見を発表し、友達の意見を評価する。	
整理	45分	○出された意見に対する研究者の評価を聞き、分析方法や説の立て方、資料の活用方法などについての評価を聞く。	・生徒の意見に対して研究者の立場から論を立てる手法について意見を述べ、現在どのような考え方がこの遺跡において有効であるのかを聞く。

1 土屋武志 「歴史教育における欧米型と東アジア型」『解釈型歴史学習のすすめ 対話を重視した社会科学歴史』P.13 2011 梓出版社

2 保護者向けパンフレット 『学校・家庭・地域が力をあわせ、社会全体で、子どもたちの「生きる力」をはぐくむために～新学習指導要領スタート～』P.13 2010 文部科学省

3 拙稿 「社会的事象と向き合い、多面的に見つめることのできる歴史学習と史料活用の意義—江戸図屏

風を絵画史料として用いた授業からの考察―『学校と歴博をつなぐ―平成20・21年度博学連携研究会
議実践報告書―』2010 国立歴史民俗博物館

4『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』2011 帝国書院